



## カンボジアの子どもたちに教育を

ニュースレター 75号

2023年12月

### 2023年活動について

カンボジアでは識字学校の運営継続支援と生活や学業がより困難な状況にある子どもたちの生活費、学費援助のため現地スタッフが行っていた Drinking Friends' Fund(以下 DFF)への積極支援を継続しております。また、今年は久々のフェスタへの参加、音楽イベントの参加、韓国から来日のウさん(当会創始者の一人)と懇談会もやってきました。毎月の実務者会議については Zoom 会議を継続しております。

来年も1月ビビンの会(これから企画)、5月カンボジアフェスタ、7月音楽イベント、他のイベント参加・開催をしていきたいと思っております。

あらためまして皆さまのご支援にお礼申し上げます。今後も変わらぬご支援をお願いします。

### ◆ 2023年活動概要

水谷充徳

- ◆ 1月… 全体会議を実施。今年の活動内容について確認。
- ◆ 5月… カンボジアフェスタ@代々木公園に参加。久々にフェスタへ参加。
- ◆ 7月… 音楽イベントにチャリティ参加。当会の紹介、募金を実施。
- ◆ 8月… ニュースレター74号発行。スタッフだけの対応。
- ◆ 9月… NPO 創始者の一人 ウさんが韓国から来日、懇談会実施。
- ◆ 12月… 久々にボランティアを募集し、ニュースレター75号発行。



<カンボジアフェスタ>



<ウさん懇談会>

-2023 年度 カンボジア識字学校(NFEC)の状況

2011 年に開校した非正規の識字学校も今年で 12 年目を迎えました。コロナ禍の影響の中でしばらくは子供たちが曜日ごと順番にクラスに通う状況が続いていましたが、以前と同じように毎日通うことが出来るようになりました。子どもたちの数も大幅に減少することなく、1~2年生のクラスでは35名、3~6年生までは20人、全体では 55 人の子供たちが元気に授業を受けに来ていると、カンボジア人スタッフのリティさんより先月報告を受けました。

今回のニュースレターでは、先生1名と、Drinking Friends' Fund\*でも支援している2名へのインタビューについてお伝えしたいと思います。

インタビュー内容をお伝えする前にご報告となりますが、Drinking Friends' Fund で支援をしていた女の子のうちの一人、Pov Pisey ちゃんが 11 月中旬に家庭の事情により親戚と一緒に別の地域へ引っ越すこととなりました。

今後は、夏のニュースレターで近況報告をさせていただいた Piseth さん(Royal University of Laws in Phnom Penh 王立経済大学2年生)と、今回のインタビューに出てくる Kob Chandy ちゃん、2名の支援を行っていく予定です。

・・プノンペン在住のカンボジア人スタッフ、ポット・リティが2016年12月に設立したこの“Drinking Friends' Fund”は、お酒を飲む代金(飲む回数を減らしたり、一回の量を少なくしたり等)、または飲みに行かなくても個人が捻出したお金を寄付し、子供たちの生活費や教育費をサポートする基金です。現地の“Drinking Friends' Fund”を積極支援するため、2020年より毎月カンボジアへ送金し、子どもたちの生活費や教育費に充てていただいています。

<インタビュー内容>

●Khorn Sovichea 先生(女性)

新しく識字学校の先生として教えている Sovichea(ソヴィチェア)先生は、現在23歳で、2011年に



学級のスタートに尽力してくださった Sokdorn(ソクホーン)先生の娘さんです。彼女は王立大学の理学部で4年間学んでおり、2年前に卒業しました。

現在は、近隣の Wathar 小学校で1, 2年生に教えるかわら、当会の識字学校にて同じく1, 2年生を教えてくれています。借りている場所の関係もあり、どうしても学級を一緒にして授業を行わないといけないこともあるのですが、先生は時々違う学年と一緒に教える事への難しさを感じながらも子供たちと一緒にいることに幸せを感じながら毎日元気に授業を行ってくれているそうです。

### ●Kob Chandy ちゃん

Drinking Friends' Fund への積極支援を始めたころは、まだ幼さが残る雰囲気のコブちゃんでしたが、リティさんからの写真を拝見した際、スタッフ自身も嬉しい驚きを感じました。来年識字学校を卒業し、7年生(日本の中学1年生に当たる)になり Tuol Ampil 中学校へ進学する予定のコブちゃんはお姉さんに成長した様子でした。

父親はすでに亡くなっており母親は工場で働いていますが、病弱で生活に十分なお金を稼ぐことが出来ません。当会からの支援のお金は、食料や文房具、また重要な移動手段である自転車が壊れてしまった際の修理費にあてているとのことでした。祖母の家で暮らしながら通ってくる彼女は、可能な限り大好きな勉強を続けていきたいと言っていたそうです。



〈左から、識字学校の開校に尽力して下さったソクホーン先生(3～6年生担当)、Kob ちゃん、リティさん、Drinking Friends' Fund のサポーターの一人、Piseth さん〉

次号では、大学2年生になった Piseth さんの近況報告をさせていただく予定です。2018年の5月に現地へ足を運んで以来、カンボジアには行けておりませんが、コロナ以前の状況に戻った識字学校で成長していく子供たちの様子を見る度に、親のような気持ちになってしまいます。今後も変わらず子供たちが毎日楽しく元気に勉強を続けられるよう、皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

## ◆カンボジアと地雷 (カンボジア訪問記)

青木 隆

当会でスタッフとして活動のお手伝いをさせていただくことになりました青木といいます。カンボジアとの関わりは、内戦後、国連カンボジア暫定統治機構監視下による選挙が終了し、ようやく平和な時代が訪れた90年代末期、かの地の現状を見ようと一人旅をした時からとなります。

初めてカンボジアの地を訪れてから四半世紀。当時は、隣国から陸路で入国した場合、道路の両側には内戦の時代に埋設された地雷が存在していることを示すドクロのマークがついた看板をそこかしこで見かけたものです。近年は国境地帯を含め、旅行者が通過するような道路でそのような看板を目にすることは無くなりましたが、あまり人が入らないような農村地帯を中心に、いまだに大量の地雷が埋設されていると耳にします。

その後カンボジアには何度も足を運びましたが、ここ数年はコロナ禍により訪れることが困難な状況でした。そして、ようやく制限のない往来が可能となり、本年9月に4年ぶりに訪問しましたので、この際、カンボジアの歴史における負の遺産である「地雷」の現状について、あらためて見つめ直すこととしました。

今回の訪問先はCMAC(カンボジア・マイン・アクション・センター)。アンコール遺跡群が存在し、多くの観光客で賑わうシェムリアップの郊外に位置しており、敷地内にはカンボジアの地に埋設された莫大な数の地雷、そして現在に至るまでの除去作業の状況などが多くの展示物とともに解説されている博物館があります。市内からは結構距離があり、センターの周辺は幹線道路から離れており、未舗装の凹凸道をトゥクトゥクにしがみつきながら進み、到着しました。

普段はほとんど訪問客が無いようで、この時も私以外に訪問客の姿は見られませんでした。私はアポなしで訪問したのですが、入口でお会いしたセンターを管理されている男性の方に、博物館を含め、敷地内を1時間ほど案内していただきました(突然の訪問にもかかわらず、とても丁寧かつ詳細に説明いただき、本当に感謝しております)。

博物館の外には地雷が埋設されている状況が再現されています。印がなければどこに埋まっているのか全くわかりません。内戦によりカンボジア国内には400万～600万個の地雷が埋められたとされています。



博物館の中には国民が大虐殺されたポル・ポト時代の様子が写真と映像にて解説されています。カンボジアの地図上で色がついているところが地雷の埋まっているところです。ポル・ポトと敵対していたベトナム寄り、北西部タイ国境付近に多く埋設されていることがわかります。



対人地雷、対戦車地雷、クラスター爆弾等の実物がソ連製、中国製、アメリカ製など、国別に展示されています。クラスター爆弾とは大きなコンテナの中に数個から数百個の小さな爆弾が入っており、上空から航空機などで投下され、空中でまき散らす兵器です。拡散する範囲はサッカー場数面分になるともいわれており、不発弾も多数存在します。

また、地雷除去訓練の様子なども紹介されています。地雷は設置の費用に比べ、除去し、処理するためには100倍もの費用がかかるといわれています。地雷除去には自衛隊OBの方々も活動に参加しており、また屋外に展示されている地雷除去機が日本製であることから分かるように、日本もこのプロジェクトに積極的に関与しています。



地雷の目的は、相手の命は奪わず、負傷させることにあります。命を奪えば相手の戦力を1名失わせる

だけですが、負傷させることによりその人を助ける人が必要となり、さらに複数の戦力を失わせることに繋がります。また、国家として障がい者を抱えさせることにより、その後の復興に負担を与え、発展を阻害することを目的としている非常に卑劣な兵器です。

内戦終結後数十年が経過しており、首都プノンペンには高層ビルや日系の大型ショッピングモールも複数建設され、悪夢の時代は遠い昔のことになったように見えます。しかしながら、地雷除去という生死と隣り合わせにある作業は現在進行形で行われており、この瞬間にも地雷被害に怯えている人たちが多数いるということを決して忘れてはなりません。

中には親が地雷の被害を受け、まともに仕事を行うことができず、貧困に陥っている家庭もあるでしょう。そしてそのような事情は子供の教育にも深く関わってきます。平和の時間を当たり前のように享受している私たちができることは何か、深く考えさせられる訪問となりました

NL73号にてウ・スグンさんが当会を設立したきっかけ(インタビュー)の前編を紹介いたしました。今回は日韓アジア基金を設立しようと思いついた後からのお話を紹介いたします。

日韓アジア基金を設立しようとした時は、ABK(アジア文化会館)に住んでいて、そこで知り合ったかなえちゃんとするまくんという2人の友人がいました。彼らに日韓アジア基金を設立したいと話したところ、ぜひ一緒にやりましょうと賛同してくれました。そして私たち3人が中心になり日韓アジア基金を設立しました。

パンフレットやチラシを書いて作り、人々に会って説明して協力してもらえないかお願いしました。ほとんどの人が快く、素晴らしいアイデアですね、これは良いですよ、と言ってくれました。そうする中でマスコミの方々を紹介してくれて、当時ほとんど全てのマスコミのインタビューを受けました。そのマスコミの報道を見て本当に日本全国から、東京から北海道まで僕に会いたいと尋ねてきてくれましたが、その中でも特に記憶に残っているのは、当時80代のおばあさんだったのです。

当時アジア文化会館の寮に来て色々な話しをしました。彼女は韓国、(当時の)朝鮮で生まれたそうです。幼い時そこで育ってきたのですけれども、朝鮮の人々がみなよくしてくれて、親切で、彼女の頭の中では(当時の朝鮮に対して)非常に良い思いがあるのに、どうして(韓国との関係が)こんなに悪い状況になっているのか理解に苦しむと話していました。それは日本が韓国に対して誤解しているからなのではないかと思っていますと、このような話をたくさん聞いて1時間半くらい時間が経ち、僕は彼女の健康が気になるほどでした。

また、北海道から何回か乗り換えて、夜行バスで14時間かけて来てくれた20代の専門学校生もいました。どうして来たのですかと聞くと、報道を見てうさんに会いたくて来たと言っていました。僕は信じられなかったです。どうして来てくれたのかも一度聞いてみましたが、本当に私に会いたくて来てくれたのです。そしてたった1時間だけ話しました。彼がそんなに遠くから時間を掛けてきてくれたことがわかっていたら、僕は彼とご飯でも食べながら話をしたかったのですが、1時間後に他の約束があって他の場所に行かなければならなかったのです。その時彼とたった1時間しか会えなくて、今もすごく申し訳ない気持ちがあります。

当時のマスコミも、日本に来ている韓国の留学生がこのような活動を考えていると(日韓アジア基金のことを)取り上げてくれました。歴史のことで日韓関係がこんなに悪く中で、反省をして発展させるというのはこういう活動ではないかと、みないい反応を見せてくれました。

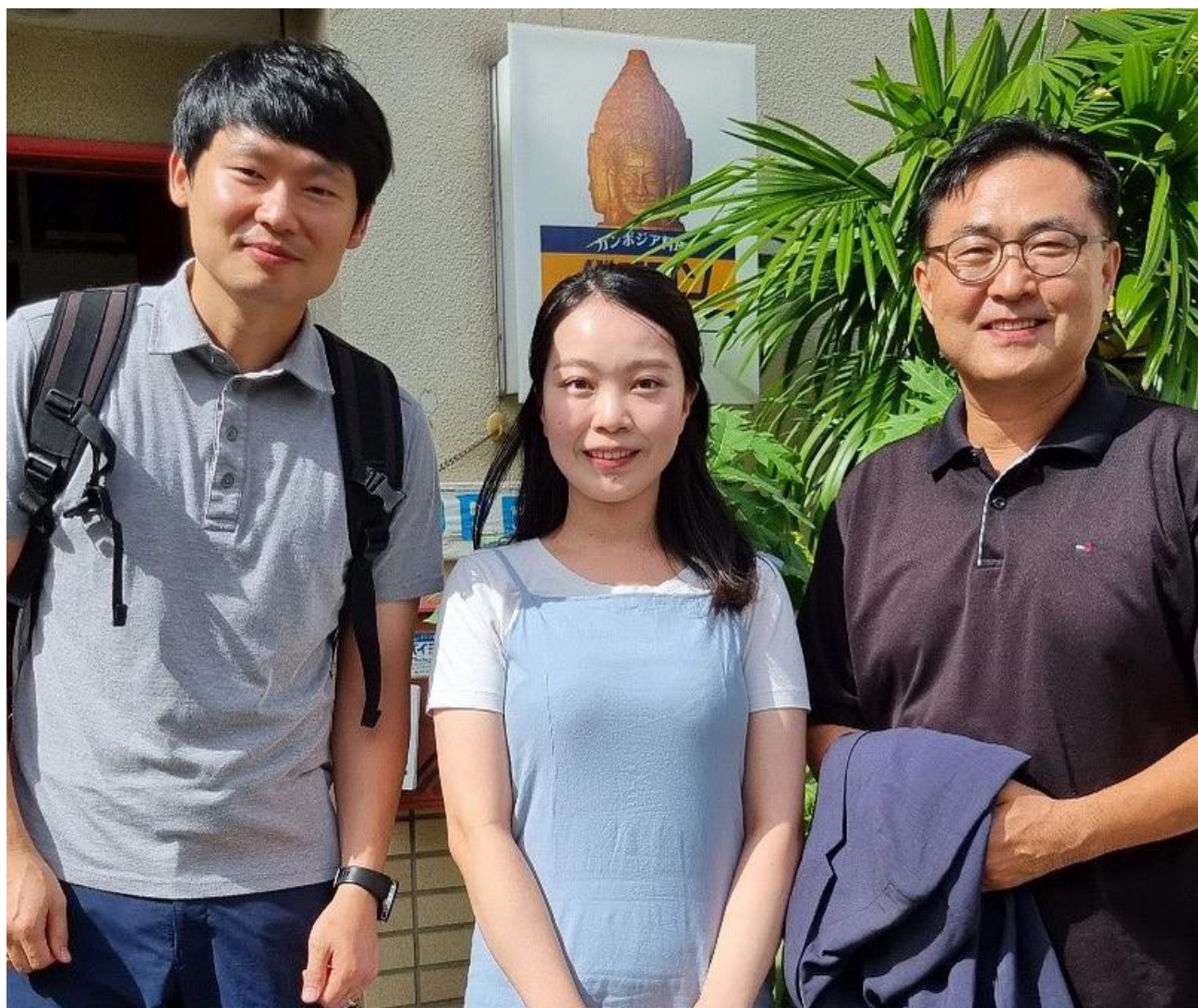
以上が日韓アジア基金設立当時の話です。

日韓アジア基金はうさんだけでなく、2人の日本人の方も設立にご協力いただいております。

-おまけ-

9月の上旬にウ・スグンさんと5年ぶりに会いました。現在は韓国で韓中グローバル協会の会長として活躍されています。それでも長らく外国にいたため生活や活動の基盤を作ることに未だ苦勞しているそうです。日韓アジア基金のことはいつも頭の片隅にありながら何もできず、申し訳ない気持ちでいっぱいだとお話しされていました。お互いに自分のいる場所で出来ることをすれば、それもまた未来へ続くでしょうとお話をしてお別れをしました。ウさんからはご寄付をいただいたり、日本の学校へ韓国の学校をご紹介いただいたりと活動にご協力いただいております。

写真は右がウ・スグンさん、左がキム・ハリョンさん(韓中グローバル協会の事務総長)



## ◆事務連絡

丸山芳彦

◆2023年8月～2023年12月10日に会費・ご寄付を下さった方(敬称略・順不同)  
ありがとうございました。頂いたご寄付は大切にに使わせていただきます。

荒川雄彦	井内和夫	松本昌幸	高橋周孝	中田邦雄	大坪玲子
国重純子	加藤茂行	菊池礼乃	菊池貞子	松田明美	松本俊之
水谷充徳	松井ふみ子	堀内和子	丸山芳彦	江本哲也	武之内教男
澤入寛	青木隆	伊藤潤	梅澤正人	田中清隆	坂本美詠子

## ◆イベント関連

今年度前半はコロナ感染症を考慮し、各イベントはスタッフだけで対応いたしました  
12月ニュースレター発送作業からは、コロナ以前のようにボランティアさんを募り  
作業を行いました。予想以上のみなさんがボランティアに応募してくださりました。  
(次回のニュースレターで詳しくご報告いたします)

## ◆ご入会・ご寄付のお願い

活動会員: 年会費 5000円 学生2000円  
賛助会員: 年会費 1口 5000円 学生2000円  
法人会員: 年会費 1口 10万円  
ご寄付: 2000円以上 おいくらでも

活動会員: 活動に参加いただける方  
... 総会での議決権がございます  
賛助会員: 定期的にご支援いただける方

### ■郵便振込口座

支店名: 〇一丸(セトイサリ)支店  
口座番号: 00180-2-25153  
口座名: 日韓アジア基金  
(ニッカンアジア基金)

### ■クレジットカードでのご寄付

⇒⇒⇒  
(当会の紹介もご覧できます!)



ご寄付くださった方には、年数回発行の  
ニュースレターを送ります。

また、感謝の意を込めて、ささやかな  
プレゼントを年1回ニュースレターに同封  
させていただきます。

## <お問合せ先>

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内

E-メール: [nikka17@iloveasia2.sakura.ne.jp](mailto:nikka17@iloveasia2.sakura.ne.jp) Tel: 080-6761-1951(担当 丸山)

HP: <http://www.iloveasiafund.com> Facebook、Twitter もご覧ください!

— 発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也 —